



医療技術部

1. スタッフ

部長：横山 俊朗
副部長：柿沼 廣邦

- ① 臨床検査技術部門長：横山俊朗
- ② 診療放射線技術部門長：羽手村昌宏
- ③ リハビリテーション技術部門長：児玉了
- ④ 病理技術部門長：柿沼廣邦
- ⑤ ME 機器技術部門長：吉富晃子
- ⑥ 輸血管理技術部門長：福吉葉子

医療技術部職員 180 名（臨床検査技師 58 名、診療放射線技師 48 名、臨床工学技士 23 名、理学療法士 17 名、作業療法士 6 名、言語聴覚士 4 名、内視鏡技師 3 名、看護師 9 名、医療機器操作員 2 名、技術補佐員 2 名、事務補佐員 8 名）

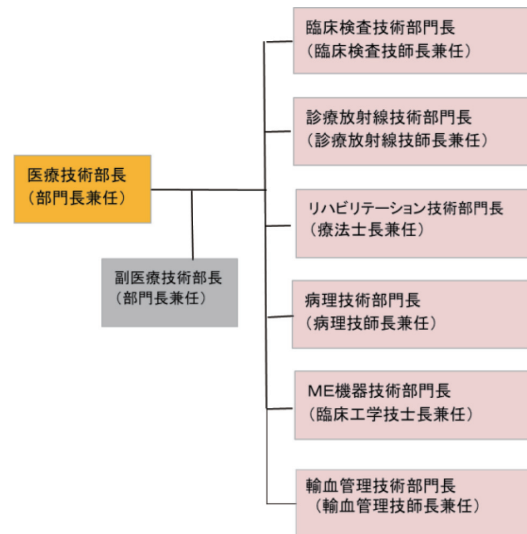
2. 特徴、概要

医療技術部は、「業務の効率化と職員の資質の向上、及び病院の診療支援、経営改善への積極的参画」を目的とし、平成 28 年 4 月から臨床検査技術部門と診療放射線技術部門の 2 部門にリハビリテーション技術部門、病理技術部門、ME 機器技術部門、令和 2 年 4 月より輸血管理技術部門が加わり、6 部門で構成されている。主な職種は、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、および看護師内視鏡技師で、職員は、各中央診療施設（中央検査部、輸血・細胞治療部、中央放射線部、リハビリテーション部、病理部、ME 機器センター、腎・血液浄化療法センター、中央手術部、集中治療部、光学医療診療部等）に配置され、それぞれの専門性を生かし日々の業務を遂行している。教育ラダーシステムに基づき専門的スキルアップ向上を行える体制を構築した。

3. 体制

当部は、24 時間体制で各診療科の日常業務から救急医療及び先進医療等の診療支援を推し進め、本院の診療・教育・研究を支援協力する。また、タスクシフト・シェアについても各部門の専門性を活かした業務について推進し、医療安全に配慮した診療支援を有効に行うこととする。業務効率性を高めるためには、個々の意識改革を進め本質的なやりがいを求め、各部門が有する使命を再認識することが重要である。今後も医療技術部の設置目的である医療技術職員の教育活動を推進し、本院の理念と医療方針に基づく優れた医療人を育成する環境作りに努める。

4. 組織図



5. 実績

令和 5 年 4 月現在、全国国立大学病院 22 施設においてマネジメント改革の提言に沿い、病院経営と診療支援および医療技術者教育を推進する目的で運営されている。

① 令和 5 年度の主な活動

- 1) 部門長会議（月 1 回）
- 2) 医療技術部合同研修会（年 3 回）

6. 資質の向上

個人の資質向上の目的で、認定技師や専門技師等の資格を積極的に取得している。また、これらの資格取得により、大学病院の高い専門性にも対応できるようになっている。

① 臨床検査技術部門および⑥ 輸血管理技術部門の資格取得状況

超音波検査士（循環器、産婦人科、体表、消化器、泌尿器、血管）、心エコー図専門技師、認定心電図技師、心電図検定 2 級、JHRS 認定心電図専門士、神経生理学会専門技術師、血管診療技師、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師、分析機器・試薬アナリスト、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師、インフェクションコントロール・クター、細胞検査士、認定血液検査技師、認定一般検査技師、認定輸血検査技師、認定 HLA 検査技術者、細胞治療認定管理師、認定サイトメリー技術者、I&A インスペクター、栄養サポートチーム専門療法士、糖尿病療法指導士、遺伝子分析科学認定士、二級臨床検査士（呼吸生理、病理、免疫血清、循環生理、微生物、臨床化学、血液）、緊急検査技士、認定救急検査技師、内視鏡技師、有機溶剤取扱作業主任者、医療情報技師、医療技術部門管理資格、健康食品管理士、肝疾患コーディネーター、隣地実習指導者

② 診療放射線技術部門の資格取得状況

医学物理士、放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士、検診マングラフィ撮影認定診療放射線技師、磁気共鳴(MR)専門技術者、血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師、核医学専門技術者、救急撮影認定技師、血管診療技師、X線CT認定技師、乳房超音波検診認定検査士、認定医療情報技師、医用画像情報管理士、初級システムアドミニストレータ、画像情報技能検定3級、X線CT検査技能検定3級、胸部画像読影検定3級、放射線管理士、放射線機器管理士、臨床実習指導教員、第一種放射線取扱主任者、AHA BLS Healthcare Provider、DMAT 隊員

③ リハビリテーション技術部門の資格取得状況
認定理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、3学会合同呼吸療法認定士、呼吸ケア指導士初級、心臓リハビリ指導士、心不全療養指導士、ICLS 認定、心電図検定、FCCS コース認定、BLS、がんリハビリ算定資格、がんリハビリ企画者資格、糖尿病療法指導士、リンパ浮腫算定資格、精密知覚機能検査算定資格、日本義肢装具学会認定士、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、福祉住環境コーディネーター、両立支援コーディネーター、発達障害児指導士、福祉用具専門相談員、JSPQ-AT

④ 病理技術部門の資格取得状況

細胞検査士、国際細胞検査士、認定病理検査技師、緊急臨床検査士、化学物質取扱作業主任者、有機溶剤取扱作業主任者、特定化学物質作業主任者

⑤ ME 機器技術部門の資格取得状況

不整脈治療専門臨床工学技士、呼吸治療専門臨床工学技士、周術期管理チーム臨床工学技士、体外循環技術認定士、透析技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士、臨床高気圧酸素治療技師、アフェリス認定技師、心血管インターベンション技師、第1種 ME、MDIC 認定士、専門臨床 ME、日本急性血液浄化学会認定指導者、医療安全管理者、DMAT 隊員

7. 臨床試験・治験への取組

臨床検査技術部門では、国際規格「ISO 15189(臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項)」を認定取得しており、臨床試験・治験業務においても積極的に参画している。リハビリテーション部門は平成30年より皮膚科の治験において、筋力・筋持久力の評価を担当し、現在も継続中である。

8. 地域医療への貢献

臨床検査技術部門は、県全体の医療レベルの向上と健康管理対策に対して、医療過疎地域の行政組織とタイアップした健康啓発活動として肝疾患センターと共同で展開した。病理部門では、がんゲノム医療に対応した標本作製を行っており、がん拠点病院として質の高い医療を提供している。

① 活動

病気の予防、早期発見をするためには、子供か

ら大人まで正しい知識と自分の「からだ」に対する興味をもってもらうことが重要である。そのため、健康フェア、大学病院子供見学デー及び健康管理として検査カフェなどを実施している。

リハビリテーション技術部門においても、リハ関連職種の研究発表・意見交換会などを行っている。また、心不全患者の社会的、身体的レベルについて、心不全患者の腸内環境と身体機能の関連、TAVI の早期離床、HAD について、ジストニアに対する上肢装具とその効果、化学療法施行中の造血器腫瘍患者の身体活動量について、生体肝移植患者における運動負荷量の設定とリハビリテーションプログラムの構築の研究など多岐にわたる分野にて研究も行っている。

なお、子供見学デーは昨年度まで、コロナ感染拡大の影響により中止されていたが、令和5年度はコロナウイルス感染対策に十分注意したうえで再開された。

・令和5年度研修引き受け者

臨床検査技術部門：1名

輸血管理技術部門：1名

9. 医療人教育の取組

当部における医療人教育は多岐に渡り、本学医学部学生から卒後研修医、クリカ・ポリクリ実習、及び各職種の資格を取得するための養成校などの学生や社会人を対象とした卒前卒後教育に参画している。

10. 研究活動

大学病院の技術系職員としては研究も重要である。下記に令和5年度の研究活動を示す。

① 臨床検査技術部門+⑥輸血管理技術部門
受託研究6件、英文論文1編、邦文論文1編、講演16回、研修5回、全国学会6題、地方会16演題など

② 診療放射線技術部門

英語論文2編、総説8編、講演33回、国際学会1題、全国学会6題、地方会6題

③ 病理技術部門

邦文論文1編、雑誌編著1編、講演3回、全国学会5題、地方会1題

④ リハビリテーション技術部門

英語論文1編、全国学会7題、地方会2題

⑤ ME 機器技術部門

英語論文1編、講演5回、全国学会6題、地方会7題